

29 台湾名勝絵巻 木下静涯

二巻のうち上巻

大正十二年（一九二三）

絹本着色
四一・七×四二六・二

木下静涯（一八八九―一九八八）は長野県上伊那郡中沢村に生まれ、東京で村瀬玉田、さらに京都で竹内栖鳳に師事した画家である。大正七年（一九一八）に中国へ写生旅行に赴く際に立ち寄った台湾で、その風光明媚な風景に魅せられ、台北などで絵画展を数度開催し高い評価を受けた。本絵巻は、大正十二年の皇太子（昭和天皇）台湾行啓の節に台南市より献上された作品。この献上によつてさらに画名が広まったのを機に静涯は台湾に移住することを決心し淡水に居を構えた。以降、台湾美術展覧会の創設に関わり審査員をつとめるなど、台湾美術の発展に尽力した。静涯の旧居周辺は、現在では木下静涯記念公園として開放されている。

静涯の台湾移住の契機となった本絵巻は上下二巻本であり、上巻には日月潭および霧社が、下巻には太魯閣（タロコ）などが描かれる。上巻の巻頭は鮮やかな花が点々と咲く中、線路に沿ってトロッコを押しながら山奥へ分け入っていく人々が描かれ、一山を超えると一挙に視界が開け、広大な日月潭が眼下に広がるように描かれる。雲煙が立ち上る先には険しい峡谷が展開し彼方の遠山へと続いていく。絵巻は一羽の鷺が余韻を残すように飛び去つて終わりを迎える。前景、後景が大胆に切り替わる構図に加えて、点景として小さく労働する人々を描くことで自然のスケールの大きさを表現し、豊富な金泥、群青、緑青など鮮やかな彩色を効果的に用いて、静涯が魅せられた台湾の自然美が見事に描出されている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzōkan